



長引く新型コロナウイルス感染症の流行の中ではありますが、田んぼには水が入り、日が暮れ始めると沖野名物アマガエルの歌声BGMが心地よい季節となりました。

プシハブ生活もいつの間にか半年が過ぎ、狭い・寒い・悪い事以上に、小学校の子ども達の学校での頑張りを生で見ることができたり、美しい桜の花を堪能できたり、目の前の水辺の自然を感じとれたり・・・本館では経験できなかった素敵な経験を積んで、毎日ちむどんんしています。

又、4月から地域の小・高・老福センターに新しい校長先生、館長さんが赴任されたので、先月号に続き、今月号でもご紹介させていただきます。

沖野にまた、新たな素敵な風が・・・！！楽しみですね



集まれ！わんぱくキッズ～お父さん出番です～ 第1弾

スポーツ鬼ごっこ大会を開催します！

スポーツ鬼ごっこはチーム戦の鬼ごっこで、相手の宝を多く取った方が勝ちです。前回参加した皆さんの大好評の声にお応えし、6月25日（土）に開催します！

詳しくは後日配布されるチラシをご覧ください。皆さんのお申し込みをお待ちしています。



講座レポート 折紙ボランティア養成講座

連携 沖野老人福祉センター

5月19日に、沖野老人福祉センターを会場に開催しました。今回は沖野児童館に提供するアジサイ作りです。台紙の大きさを確認し、ある程度レイアウトを固めたら、早速作業開始。15名の受講生の皆さんが一丸となり、アジサイやかわいいカタツムリを作りました。



このアジサイは児童館入り口壁面に掲示中です。市民センター・児童館にお越しの際はぜひご覧ください。折り紙ボランティア養成講座受講生の皆さん、ありがとうございました。

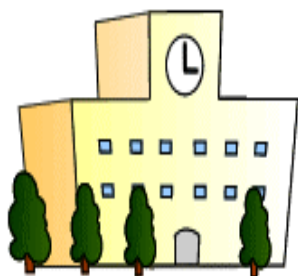
回 覧									

今年度赴任されたお二人から自己紹介をご寄稿いただきました

宮城県仙台東高等学校
校長 山内 民

沖野老人福祉センター
沖野居宅介護支援センター
館長兼所長 天野 博美

4月より仙台東高に勤めております山内民と申します。いつも本校の生徒や職員が大変お世話になっております。私は東京での学生生活後に県の教員となり、黒川高・広瀬高・泉高と勤め、震災の前の年まで同じ若林区の第二女子高に8年間勤務しておりました。美田園のまなウェルみやぎ時代は自宅からの通勤路でしたので、沖野地区はととても親しみのあるところでした。震災当時は県庁の教育委員会にいましたが、その後教育行政機関と学校現場を行き来して、昨年までは県庁の私学公益法人課にいました。校長職は平成31年の岩出山高校以来の2校目となります。子供の頃から野球と英語の歌が好きでしたがそれが今の仕事に生かされるとは思いませんでした。私は南三陸町の出身で、故郷は震災で甚大な被害を受けました。当地区にも津波が近づいたと聞いております。これからも高校生には震災が風化しないように伝えていきたいと思っております。なお、本校のHPに校長だより「東の空から」を定期的に発信していますので、ご覧いただければ幸いです。どうぞこれからも、仙台東高校をよろしく願いいたします。



4月に老人福祉センターの館長に着任しました天野です。生まれは蔵王の麓の白石、大学卒業後に北仙台にある高齢者施設に就職した後、ずっと介護の仕事が続けています。これまでは施設、在宅の高齢者介護に関わる仕事をしていました。4月に初めて沖野に来ました。全く知らない土地での仕事には不安も多くありましたが、来館される皆様に優しく声を掛けていただき、勇気をもらっています。コロナ禍ではありますが、地域の皆様が元気に趣味活動の為に老福に通われているのを見て、自分ももっと頑張らなければならないと私生活を振り返ることが多くなりました。趣味は旅行とお菓子作りですが、最近は園芸にも目覚め、狭い庭に花を植えて楽しんでいます。ご利用者の皆様の活動を参考に、自分の趣味も増やしてゆきたいと思っております。

これからは、老福に通って来られる皆様と一緒に、笑顔で楽しい毎日を過ごしてゆきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。



館町内会紹介

沖野館町内会の名前の由来の「^{たて}館」は、「やかた」に由来します。

バス終点「沖野」の南側には、室町時代 國分氏の家臣・栗野大膳の館がありました。東西400m南北300mほどで、当時の二重土塁の一部が残っております。新住居表示になる前には、館西、館南、館北、館東などと地名が表示されておりました。

館町内会には、約1000世帯の方が、この歴史溢れる地域で生活されております。防災講座の実施や敬老祝賀会の開催、親と子のふれあいの集いなどを通じて、3世代交流を図り、安全・安心のまちづくりを目指して、生活基盤の充実と新しいコミュニティの創造の実現に挑戦しております。

